

復活節第3主日

ヨハネ 21・1-14

2019. 5. 4

カトリック高円寺教会 18:30 ミサ
京都司教区司祭 国本静三神父

早、復活節第3の主日を迎えております。そして、ずっとこのミサの間、毎日、毎朝、キリストの復活について朗読されております。このヨハネの福音も皆さんよくご存知でしょう。非常に面白いですね。弟子たちがずっとまだ漁をして、これが一つの仕事でもあったのでしょうか。そして、夜からずっと魚をとっているわけですが、全くとれない。そして、ペトロがまた「行く」と言うと、皆が「行こう」という。そして、夜が明けてしまう。ふと見ると、イエスが岸に立っておられた。ここにも書いてありますが、これが誰であるかは彼らは分からなかった。不思議ですね。

福音を見ましても不思議に思うわけですが、イエスの顔立ちだとかお姿だとか、容貌ですね、優しい顔であるとか、怖い顔であるとか、厳しい顔をしているとか、そのような記述が一切ない。そして、彼らもお目にかかってもずっと一緒に生活していたイエスの顔が分からなかったわけです。わたしたちも、そう思うと、どこかでイエスの顔を見ているのかもしれない。電車の中で、職場の中で、あるいはなんでもないところで。そんなに個性がない、特徴のない方なのではないでしょうか。これは非常に不思議です。で、それが非常に神秘的な印象をわたしは受けております。

そこで、イエスは「何か食べる物があるか」と聞きます。

ここで、ちょっと面白いのですけれども、去年の11月に新共同訳の聖書の新版というのが出た。わたしはとてもしつかりなものですから、すぐ飛び込んで、そしてインターネットで調べたら今なら安いというので、割引値段だというので、すぐに申し込んで買ったわけですね。そして、これがわたしたちのミサで使うものに代わってしまうだろうと勝手に勘違いして、買ってしまったわけです。買わなければよかったとも思ってるんですけども。でも、面白いのは、良い訳、分かり易い訳のところもあるんですけども、ここはちょっと変だと思えます。「子たちよ、なにかおかずにあるものがあるか」と書いてあるんです。「おかず」。だから、ちょっと変な感じがしました。人間はやっぱり落ち着かなければだめだなと思えました。ある人に「教会の朗読の聖書が変わるんですか？」と聞いてみたら、「そんなもの、変わるとして10年以上かかるだろう」と。「じゃあ、もうわたしにとっては死ぬまでこのままなんだ」と思

いましたけれども、「そんなに早く認定されない」と。ちょっと幼稚なところをご紹介いたしました。

さて、話を元に戻しますよ。イエスは「何か食べる物があるか」と言われますと、「ありません」と弟子たちは言うわけでありまして、**「舟の右側に網をうちなさい」と**、そのようにすると、大漁だったわけです。岸に上がってくると、イエスが用意していらっしゃった。非常に不思議。それで、はっと彼らは分かるわけでありまして、**「ほお」**と、そして、わたしたちは、やっぱり会いたい、どこに行ったら会えるんだ、と。これはわたしたちが死んで、この世を去って、そして天の国に入ったときには見られるのか、まだ神の庭の前で待たされるのか。世の終わりに復活があると書いてあるわけでありまして、世の終わりということは、この地球の終わり、あるいは宇宙の終わり、よく分からないわけですが、そんなことになれば何億年先か分からないわけでありまして、待ってられないわけですね。不思議です。これは神秘ですけども、そんな時間なんか問題じゃないのでしょうか。そのときに、わたしたちは必ずイエスの顔を見る。早く見たい。

そして、もっと大切なことは、わたしたちも必ず然るべきときに復活する、と。その先駆けとして待っていてくださる、と。そういう一つの単純信仰の中で生きて、捉えまして、皆さんも是非それを期待してください。そして、わたしたちは、こうしてミサの祈りをするわけでありまして、**聖体の秘跡を通してイエスに出会う、と**。信仰の神秘の次元の中でイエスに出会っているわけでありまして、これを深く心に納めてください。そして、これを続けて、わたしたちの期待と希望が膨らんでいくということになります。

そして、わたしたちはそのためにもよく生きなくてはならないわけでありまして、いろいろなことをしなくてはならないわけでありまして、もう数えたらきりがありませんけれども、どうぞ、希望を持って、いろいろな環境の中で、電車の中で、職場の中で、教会の中で、何ができるかということです。皆さんの笑顔だけで人を救うかもしれない。ひと言で、席を代わってあげるだけで、多くの人に、ある人には大きな恵みを与えることになるのかもしれない。そういうわたしたちが神の恵みの分配者になれるように、またこの一週間努力して、そして良い自分が歩み出し、そして実行できるように、今日のミサの秘跡によってその力の原理を得て帰ってください。今日は主日の前の夕方になるわけですが、良い主日が迎えられるように、わたしも心をあわせて祈ります。